立志式　式辞

新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が猛威を振るい、全国での累計感染者数は、優に５００万人を突破。県内での新規感染者も１５日連続で３００人を数えています。いわゆる「第６波」の勢いに歯止めがかからず、収束の見通しの立ちにくい厳しい状況の中、保護者の皆様にご出席いただき、なんとか立志式を行えることに、心から感謝したいと思います。

さて、先週は卒業証書授与式を行いました。卒業生、５２名、一人一人の表情からは、川西中学校の３年間で、やらなければならないこと、努力すべきことは全てやり切った、という達成感がその表情からはっきりと見て取れました。卒業生は、この川西中学校の華やかな式場を後に、力強く羽ばたいて行きました。あの素晴らし

い式場づくりを行ってくれたのは皆さんです。まず、この場を借りて、お礼を述べたいと思います。「本当にありがとう。」

次は、いよいよ皆さんの出番です。表舞台に登場です。4月からは新入生43名を迎えて3年生となり、名実ともに川西中学校の最高学年であり、義務教育9か年の総まとめの節目の年。気持ちを新たに、本校の旗印である「文武両道」を目指して、学業や部活動にしっかりと打ち込んでください。また、伝統ある川西中学校の先輩として、「まずは、自分が行動する」つまり「率先垂範を」旨として、新入生をはじめ、後輩たちをしっかりとリードして欲しいと思います。

ここで、立志式にあたり、郷土の偉人である橋本左内に少し触れ、式の意義について確認したいと思います。

井伊直弼によって、安政の大獄で、若干25歳と、短

すぎる生涯を閉じた幕末の志士「橋本左内」。もし、この人が長生きしていたのなら、明治の世の中はまた違ったものになっていたとさえ言われている人物です。明治維新の中心となって活躍した西郷隆盛でも、橋本左内には一目も二目も置いていました。昨年の、ＮＨＫの大河ドラマ「晴天を衝け」の主人公は「渋沢栄一」。２０２４年から「福沢諭吉」に代わって1万円紙幣に登場する人物ですが、このドラマにも「橋本左内」は重要な役割を担って、十数回にわたって登場していました。2階フロアに大河ドラマのコーナーがありますから、再確認してください。なお、現在の大河ドラマは「鎌倉殿の１３人」です。平安末から鎌倉前期を舞台に、源平合戦と鎌倉幕府が誕生する過程を、時にはコミカルに、時にはシリアスに描いています。お家の人と共に、是非、大河ドラマを見てください。間違いなく、社会の「歴史」、国語の「古文」に強くなります。

この「左内」が数えの年１５歳、現在の満１４歳の時

に臨んだ「元服式」。これは、現在の成人式に当たるものです。当時の武家社会では、この年齢を迎えると、頭首に対して、自分の決意を明らかにし、それと共に大人としての社会的地位が与えられ、大きな責任を持たされました。その時の「左内」の決意が「啓発録」で、立派な人になるためには5つのことが大切で、「左内」はこれを実行しようと考えました。

この郷土の偉大な先人「橋本左内」にちなんで行うものが「立志式」です。これを契機に、皆さんも自分の将来を見通して目標を定め、その達成のために自分自身をどのように鍛錬して成長させていくのかを明確にしましょう。また、言うまでもなく、法律の世界では満14歳が大人として扱われます。これまでなら、法に触れてしまうようなトラブルでも、ほぼ全てが保護者の責任でした。子供は未熟であるとして、法律で守られていたのです。しかし、今後のトラブルは、ほぼ全てが皆さん個人の責任となることを、肝に銘じてください。法律

の世界は、大人に対してはとても厳しいのです。また、現在、成人年齢は２０歳ですが、２０２２年4月1日から、つまり、この4月から１８歳となり、皆さんは１８歳が成人年齢であることも自覚しましょう。

さて、皆さんは、1年後に、進路を選択し、決定するという試練に直面します。正確に言うなら、県内の中学3年生７０００人全員が受ける十一月八日九日の学力診断テストまで、もう8か月を切りました。この式に臨むに当たって立てた「私の啓発録」の達成に向け、「早寝・早起き・朝ご飯」による十分な食事と睡眠という、各家庭における基本的な生活習慣を土台として、地道な努力を積み重ねてください。無論、家庭での生活習慣は保護者の方の生き方が如実に反映されるものであるということも、この場を借りて確認しておきたいと思います。そして、1年後には、先輩のように、自分の望む進路を、自分の手でしっかりと掴み取ることを、心から願っています。

終わりになりますが、ワクチン接種を加速させているとは言え、ウイルスは次々と変異を重ねてコロナ禍は3年目を迎え、その猛威は収まる気配もありません。今後も、誰も経験したことのない厳しい環境下で、試行錯誤を繰り返すことになります。この危機的状況を乗り越えるには、家庭・学校・地域が、一層、強固なスクラムを組まなければなりません。そのため、これまで以上に学校教育に対しまして、保護者の方のご理解とご協力をお願いいたします。

以上、３８名の生徒の皆さんの、さらなる飛躍を祈念しまして、式辞と致します。

令和四年三月十五日

福井市川西中学校長　齊　藤　浩　之